

ふたかみ NEWS プチトマト

トピック
古着市開催！
詳細4面

ハピバールに
アペルバスがやってきました！



絵本や映画で有名な「えんとつ町のプペル」の絵が展示されている「プペルバス」がハピバールにやってきました！中はキラキラなパネル展示で、バスと写真を撮ることもでき、楽しい時間を過ごしました♪



社会福祉法人ふたかみ福祉会

〒583-0841 大阪府羽曳野市駒ヶ谷 105 番地 1 TEL 072-959-3221 FAX 072-959-3264

Email: futakami@kagayaku-inochi.com <https://kagayaku-inochi.com/company/>

発行責任者：石本悦二 編集責任者：関口奈緒美



販売へ
行ってきました



1/16 はびきの園とハピバールで藤井寺支援学校の販売へ！去年まで通っていた仲間は今回初めての販売でドキドキ！久しぶりの先生との再会に喜ばれていました！クッキーやお皿をたくさんお買い上げいただきありがとうございます。



きょうされん 第48次
国会請願署名・募金運動
全国キャンペーン

えらべよう
くらしを
はたらく
はたらく
はたらく

2024年 12月
2025年 04月

障害者権利条約を地域のすみずみに
障害のある人たちを支える
制度づくりのための
署名・募金にご協力ください

おたのしみも愛しています

古着市 全品100円!

ふたかみ福祉会後援会で古着市を開催します！
ぜひ会場へお越しください♪

2025年 3月 20日 (祝・木)
10:00~13:00

※当日の天候等により、時間を変更する可能性があります。

会場：翠鳥園横空き地 (イズミヤ古市店横)
売り物：古着、靴、かばん **子ども服もあります**

今回は回収を行いません。いつもご協力ありがとうございます。

お問い合わせ先：072-959-3221
ふたかみ福祉会事務所まで

cafeハピバール

3月の予定

定休日 毎週水曜/日曜

休み 1日(土)、15日(土)

★Instagram★
[cafe-hapibar.com](https://www.instagram.com/cafe-hapibar.com)



お問い合わせ先
072-958-3232

■後援会入会及び更新の方々 (敬称略)

2025年1月

- ・田中美希 谷佐代子
- ・布引正太郎
- ・竹内彩

- 以上3口
- 以上2口
- 以上1口

■寄付 田中美希様 谷佐代子様

■アルミ缶回収 (1月分) 1034 kg

ありがとうございます。

◆2024年度ふたかみ福祉会後援会入会、更新のお願い◆

皆様の引き続き日中支援事業所や相談支援へのご支援をどうぞよろしくお願いいたします。

【個人会費：1口3,000円 団体会費：1口10,000円】 郵便振替口座：00940-5-325894

戦後80年の節目にあたり、日本国憲法と障害者権利条約を直ぐ中に

～きょうせれん経営管理学会総会に参加して～

「D.E.E.（多様性、公平性、包摂性）」政策を進めてきアメリカの大企業ですが、トランプ大統領となりその政策も大きく後退しそうです。旅客機と米軍ヘリコプターが衝突事故（死者67名）をめくりトランプ大統領は、少数派や障害者といった集団の雇用を増やそうとする取り組みが今回の事故にどうつながったのかについて証拠を示すことなく、「その可能性があった」と語っています。こうしたD.E.E.（多様性、公平性、包摂性）を認めない発言は、アメリカで活動する大企業にも大きな影響を受け、「D.E.E.」政策を後退させる企業も出てきていると言われています。この流れは、多様性、包摂を進める障害者権利条約とは反対の流れといえます。

この判決は、国際的な障害関係団体や個人から、「歴史的なことです！世界の他の国々は、この好例から学ぶべきことがたくさんあります」「強制不妊手術の廃止に向けて…日本の障害者の権利にとって画期的な判決」だと歓迎されています。ただ残念なことに13の欧州連合加盟国が、いまだに何らかの強制不妊手術を法律で認めていると欧州障害フォーラムで報告されています。

障害のある子どもを産んだことで「うちの家系で（障害児は）なかった」と障害のある子を産んだ母親の責任にされたこと、父親の実家では部屋にあげもらえず「庭でテントを張り障害のある子と二人で寝た」という話を聞いたことがあります。障害があっても生きる権利は同じです。しかし、津久井やまゆり園事件では「障害のある人は劣っている」という優生思想が深くかかっています。改めて日本国憲法をしっかりと活かして一人ひとりが大切にされる運動を進めていきたいと思います。

（石本）



皆でひな祭り♡

グループホーム

「ハーモニー」の仲間皆で、ひな祭りの飾りを作りました。好きな色の折り紙を選んで、丸い形に沿って紙を切ったり、テープを貼ったり。お内裏様とおひな様の顔もそれぞれ自分で描いています。皆お手を見ながら丁寧に作業し、とてもかわいく仕上がりました。

職員が「お内裏様のところに好きな人の名前を書いてもいいですよ」と伝えると、「え？キヤイ♡」と照れながらもしっかりと名前を書いた仲間もあり、女子会のように盛り上がりました。

このようにハーモニーの仲間達はいつも、和気あいあいと過ごしています。次は何をしようかな？

（経澤）



「東日本大震災から14年経過して感じること」

2011年に発生した東日本大震災から今年で14年が経ちます。震災当時、私は高校生で、テレビから流れる津波や原発事故の映像に大変ショックを受けたのを覚えています。

何かできることはないかと、震災から1年ほど経った頃から、何度か福島にボランティアに行きました。そこでは仮設住宅の集会所で歌声喫茶やハンドマッサージなど、ちょっとした娯楽を提供するお手伝いをしました。

現地で、津波被害に遭って一帯が何もない状態になり、バスタブだけポツンと残っている区画を見学したり、歌声喫茶では「ふるさとが津波や原発でなくなってしまうから、ふるさとが歌えない」と涙ぐむ方がいたり、テレビの報道だけでは知ることが出来なかった現実を目の当たりにしました。

東日本大震災から14年経たことが何えました。東日本大震災から14年経ち、津波対策や耐震工事などは進んでいるように思いますが、防災グッズなどの備えにも関心が向くようになったと思います。間もなく地震が起きたら、すぐに避難場所まで避難できるでしょうか？

（波多江の）

ふたかみ福祉会虐待防止研修 虐待防止に向けて利用者支援について考える

今年最初の法人研修は、関西福祉科学大学の柿木先生による虐待防止研修でした。今回の研修では、基礎的な虐待についての内容や防止に向けた考え方の講義、1つの事例をテーマにグループディスカッションを行い、内容を深めました。

私が講義の中で特に考えさせられたのは、身体拘束の内容でした。私は普段、はびきの園に所属し、なかまと日々、様々な活動に取り組んでいます。園で生活する中で、時にはパニックになり他傷や自傷してしまうなかま、急に走り出してしまふなかまもあり、本人たちの安全を守る手段として、なかまの手を止める、表の道路に走って行かないよう制止することがあります。講義の中で、正当な理由のない身体拘束は、時に本人の能力や権利を奪うことに繋がりがかりかれないという話がありました。

私自身は安全を守るといいう理由で行っていますが、見ている人たちがその支援を日常的に行って良い支援のように、間違っ

ことも必要だと感じました。自分の実践を改めて見直すこと、自分が荒唐などへ伝える立場に立った時は、身体拘束の明確な意味なども伝えていかなければならないと思いました。

グループディスカッションでは、グループホームのなかまが夜間に窓から外へ出て行ってしまふという事例を元に、その対応方法を議論しました。「窓を施錠した方が良い」「窓の施錠ではなく、形状を変えてしまふ。」等の直近の対策についての議論や「本人を知っていき、何が彼をそうさせるのかを見つけていく。」という、なかまに寄り添った意見もあり、とても有意義な議論になりました。

今回の研修を、職員全員が自分の日々の支援を見直す機会とし、私自身もふたかみの職員として、今後も正しくなかまの支援を考え、正しい実践ができる組織を目指していきたいです。

（寺村）

